

# 札幌市勤務医協議会ニュース

発行 札幌市勤務医協議会  
札幌市中央区大通西 19 丁目  
札幌市医師会館内

## 会長挨拶

### 会長就任挨拶

会長 成田 吉明

札幌市勤務医協議会会員の皆様、5月29日の総会で会長に選任していただきました成田です。土田前会長の元で2期4年間副会長を務めてまいりましたが、会務全般を取り仕切る会長の職責の重さは副会長の比ではないと理解しており、身の引き締まる思いです。これから2年間しっかり務めてまいりたいと考えております。役員の皆様をはじめ会員諸兄のご協力を切にお願い申し上げます。

さて、勤務医に関わる大問題である「医師の働き方改革」についての厚労省の検討会が、2年間に及ぶ議論の末、3月29日に報告書をまとめました。ポイントは(1)全ての医療機関で医師の労務管理を徹底し、36協定の締結を進める。(2)医療機関ごとにタスクシフティング・タスクシェアリングを進め、労働時間の短縮に務める。(3)時間外労働時間を一般医療機関では年間960時間以下(いわゆるA水準)、救急医療機関等では年間1860時間以下(地域医療確保暫定特定水準、いわゆるB水準)、研修医・専攻医(C1)や高度技能獲得を目指す医師(C2)も同じく年間1860時間以下(集中的技能向上水準、いわゆるC水準)と定め、B・C水準では産業医の面接義務化や連続勤務28時間以内・勤務間インターバル9時間以上などの追加的健康確保措置が義務付けられます。また、B水準は2036年3月末までに解消することも義務付けられました。

これらのルールは2024年4月から適用される訳ですが、現時点で病院勤務医の約1割にあたる2万人が1860時間を超えている現状の中で、5年間の猶予期間後には一人でも基準を超えていると罰則が適用されることとなります(6ヶ月以下の懲役または30万円以下の罰金)。

これに加えて、まだ厚労省から見解が示されていない大問題として、「宿日直許可基準の現代化」と「副業・兼業の取り扱い」があります。前者は時間外手当支給額の大幅な増額により病院経営に大きな影響を及ぼしますし、後者は大学からの応援医師引き上げについては地域医療体制の崩壊に繋がる恐れがあります。

ここでいう「医師」とは開業医ではなく勤務医を指し、病院長は除かれます。札幌市医師会でいいますと、B-2会員2,248名という大集団が対象となります。私は病院長という職位から対策を検討し実行する立場にありますが、つい数年前まで長い勤務医生活を送ってきた身でもありますので、「勤務医の視点」を忘れずに活動していく事を常に心がけていきます。

これから我々は“勤務医の健康を守る”ことと“地域医療を守る”こと、そして決して無視できない“病院の持続性を守る”という、時には相反する複雑な連立方程式の解を求めていかなければなりません。これから5年間に各病院が各々の事情に応じた現実的な改善策を実施していく中で、情報共有の場として当勤務医協議会が少しでもお役に立ちたいと願っており、その際の当協議会の立ち位置は“常に勤務医の立場に立って考える”ことだと思っております。

札幌市医師会の勤務医のうち、当勤務医協議会の会員数は217名(B-1、B-2会員の僅か7.7%)に留まっております。この会員数では当協議会が札幌市医師会の勤務医を代表しているとはとても言えません。歴代会長をはじめ役員の皆様もご苦勞されてきた点だと思いますが、今年度の最重点課題に「会員増」を掲げて、皆様のお知恵を拝借したいと存じます。

改めまして、これから2年間どうぞよろしく願い申し上げます。

(手稲溪仁会病院)

## 会長退任挨拶

### 『Diversity』—世代・立場を超えた価値観の共有を— 退任の挨拶に代えて

前会長 土田 哲人

以前にも書いたことがあるが、昔留学した米国の研究室には、アングロサクソン系アメリカ人のほか、イタリア系、ユダヤ系アメリカ人、ドイツ人、カナダ人、ブラジル人、オーストラリア人、中国人、韓国人、インド人および、イラン人が働いており、まさに人類の坩堝であった。文化も背景も異なる人たちとの交流は自分の人生においても得難い経験であった。

ユダヤ系教授は、礼拝のある土曜以外は深夜・日曜日でも自分の興味が満たされるまで働いていたが、当然のように部下にも勤務を強要するため、時としてトラブルの原因となっていた。インド人に家具を譲るため家で待っていると、約束から4時間遅れて来た上で、日本人は時間にうるさいと逆切れされた。イラン人は、友人の車を事故で廃車にしまったが、弁償を求めた友人に物が壊れたことなど重要ではない、自分の命が助かったのはアラーの神のおかげでありそれだけでも感謝すべきことであると開き直っていた。まさに「Diversity（多様性）」である。このような人々と付き合い合っていく上で、日本人に不足しておりかつ欧米生活に必須とされる「自己権利主張」は必ずしも有効な手段とは言えなかった。問題解決の上で大切なことは、相手と共通の認識を持つため、初歩的なレベルから対話を交わし一つ一つ自分の考えと相手の主張を確認していくプロセスであることを学んだ。

あれから25年経った今、日本においても同じ現実がここにある。日本の美徳とされた「以心伝心」という言葉はもはや死語になっている。「昔はこんなに大変だった、耐えた、頑張った」という武勇伝は全く他人には理解されない。一人一人感じ方も考え方も全く異なる「Diversity」な人々の暮らす国となった。

年齢を基準にとっても、「赤ひげ先生」「ブラックジャック」を理想として育った世代は、個人としての高い解決能力、全人的医療、経験に基づくオーダーメイド医療を大切にする一方、過信・思い込みにより標準的医療から逸脱し易く、教育を受けていないチーム医

療という勤務形態に混迷し、自分達が受けてきた職人芸的教育とは大きく異なる現在の研修スタイルに違和感がある。何を言い出すかわからない若年との会話が苦手である。一方、「ドクターX」「コードブルー」を見て育った世代は、より細分化されたスペシャリストを理想とし、技術取得のシステムティックな教育の受け入れ、チーム医療による分業体制による勤務を常識と感じ、一方、経験よりもマニュアルとガイドラインを偏重し、画一的医療に陥りやすい側面、責任の所在が不明確になりやすい側面もある。話の通じない年配との会話が苦手である。まさに、プロトタイプとミュータントがお互いの存在を受け入れ難いという、人類発達の歴史そのものの姿である。

昨年、本協議会30周年記念事業として発刊した「女性勤務医の勤務実態と意識に関する調査2018」において、年齢・世代という背景以外にも性別、立場の違いにより多様な意見があることが分かった。まさに勤務医もDiversityである。私が会長として4年間務めさせて頂いた実感として、勤務医を取り巻く種々の問題を解決していくためには、勤務医の意見・主張を集約して行くというパワーアッププロセスが必要なことを痛感した。また、そのための前提条件として、立場、背景、および利害関係の異なる一人一人の勤務医自体がお互いを理解しつつ、認識を新たにし共通のコンセンサスを形成していく必要性を感じた。「Diversity」にはまた「変化」という意味もある。この協議会が今後も世代・立場を超えた勤務医の交流と価値観の共有の場として寄与し、今後の医療環境の「Diversity」に対応していける会となることを心より祈念する。

(札幌南一条病院)



## 記念講演会抄録

### 「持続可能な災害医療：

#### 先のブラックアウトの反省と対策」

札幌医科大学附属病院病院長（病院管理学）

土橋 和文

北海道胆振東部地震とブラックアウト等の複合災害に関して、医療者として「ふりかえり」は続いている。被災地域として「さきがけ」「警鐘」となり、より良い災害時医療対応を目指すのは責務である。札幌医科大学附属病院での災害前の対策、災害後の「ふりかえり」、改変の進捗状況につき御報告致します。災害医療は自助60%、共助30%、公助10%と言われます。個別施設のみならず当該地域の災害医療の一助となれば幸いです。

#### 1. 平成の災害救助医療と災害時医療・避難行動の深化

新たな御世「令和」を迎えた。思えば、「平成」は多くの天災・震災があった。「天災は忘れるく前」にやってきた」。災害関連死を含め人命被害があった地震、公式記録では実に26回、うち本道周辺では5回に及んだ。未曾有の複合災害であった阪神淡路および東日本大震災は別格としても、死亡数10人以上の大規模な地震災害を、9回記録した。災害医療としては、南西沖地震での検死派遣から阪神大震災での本格的な災害派遣、さらにはDMAT/JMATの本格的整備、中越地震での後方支援、東日本大震災を経て、附属病院の災害医療マニュアル、事業継続計画（BCP）の整備と深化に関わった。

災害救助医療と災害時医療・避難行動は、概念的にも実践面でも、格段の進歩を遂げた。多くの成書もなされ、医療者は普く、限られた資源による最大効果を優先した全体利益の原則、CSCATTT、自己保全などの災害救助医療、災害医療と避難に関する原理・原則を知るところとなった。が、「知識」はいつも限定的かつ不完全である。震災の「ありよう」は個別で同じことは起きないことを実感させられる。また、発生後の時相によっても必要な医療は刻々と変化する。平時、臨床現場は非日常の連続であり、医療者は日常診療で

培ってきた胆力と状況判断・突破力に秀でている。しかし、平時からの綿密な準備なくして到底太刀打ちできないのを学んできた。

#### 2. 災害医療マニュアルと災害訓練、防災協定

災害拠点病院、特定機能病院など大規模医療機関では、東日本大震災後、災害医療、持続可能な事業継続のための方策および自らの避難を想定した災害対策の制定が求められた。当大学・附属病院では、これまで、災害医療対策活動マニュアル（平成25年8月）、事業継続計画（BCP：平成30年1月）、危機対策マニュアル（平成30年3月）の各マニュアルを整備してきた。

総数「10数cm」は、細部把握は困難で「携帯」できる代物ではない。簡便な理解のため、すべてのマニュアルを通じて、自施設の被害と避難（両方向活動）の可能性を念頭に平易なシナリオ1～4を設定した。シナリオ1および2は、いずれも自施設被害はない／軽微で活動持続は可能で、シナリオ1は主に遠隔地で災害医療活動を想定、シナリオ2は周囲に大量の負傷者・避難者の来院を想定した。一方、シナリオ3および4は救助・避難の両面を意図した。シナリオ3は一定後の退避、シナリオ4は速やかな避難とした。部署ごとにアクションプラン設定、役職アクションカードを用意し、日頃の訓練で共有してきた。各シナリオの重要な問題点ごとに平成26年：部分停電、平成27年：大量搬入、平成28年：本部機能テスト、平成29年：早事前告知のない朝6:00緊急集合など特色ある訓練を実施してきた。また、防災日には特定学年で終日災害医療実習を実施してきた。また、防災協定として、隣接NTT札幌病院とは災害時協定、開設母体の北海道とは「災害時における医療機器等の供給／保管等に関する要綱、平成25年3月」と連絡体制を確認していた。

#### 3. 北海道胆振東部地震と「ふりかえり」と改変点

平成30年9月6日、午前3時08分、平成最後の震災となった北海道胆振東部地震が発生した。震源地は胆振郡厚真町（深度：37km）、地震規模はM6.7、最大震度7、山崩れ3800ヶ所・35km<sup>2</sup>・3000万トン、家屋被害は全壊139棟・半壊242棟・一部損壊1773棟、人的被害は死者41人・重症8人・重症以外673人で

あった。二次被害としてわが国初の全域停電（ブラックアウト）と交通障害（鉄道・地下鉄・公共交通機関の停止）、物流障害（水食料供給不足）、自動車燃料および非常電源不足、病院および救急搬送など通常機能低下・多数の避難民・社会混乱、さらには情報の錯綜混乱を生じた。当院の地震による施設被害は軽微（大学本部と併せた復旧費1500万円程度）であった。

ブラックアウト、当日の対応状況を時系列に記載する。3:30 施設被害はないがブラックアウト確認、職員招集（一次招集範囲）、4:00 災害対策本部設置：非常電源作動（80%、放射線診察機器、モニター機器で大幅な制限）、電子カルテ部分停止、手術機器洗浄装置停止、4:50 院長到着（シナリオ2宣言、二次招集に拡大：希望により家族同伴出勤）、5:00 DMAT 派遣、6:25 新病棟非常電源一時停止、6:30 一時退院リスト策定と救命センター・ICU・NICU の開放準備指示（25床）、6:40 非常診療体制確認：定期外来手術中止と緊急医療移行宣言（二次三次救急）、長期間停電想定から非常電源残存までの最終判断時期論議、8:00 非常電源復旧と診断装置回復、8:17PHS 電波障害、9:25 電子カルテ回復、10:20 在宅ないし他院入院中の人工呼吸器患者引き受け決定、14:00 全体会議招集（ライフラインと当該地の医療体制について）、ブラックアウト継続で翌日まで同様の体制維持決定、14:10 電源回復から16:02 全電源通常電源に、18:00 体育館病院会議室に簡易ベッド60 準備：帰宅困難とDMAT用。とにかく混乱の1日である。「報連相」は確実に維持されたし、本部前廊下は巨大な掲示板となった。非常電源と連結不具合が中央部門で顕著、電子カルテ・モニター・医療用ガスは本体以外の電源まで事前確認が必要であった。「ふりかえり」は当然、院内外様々なレベルで実施された。院内アンケートが貴重な提言については書面の関係上で割愛する。

当院での改変点とその進捗状況に以下に概略を記す。(1)インフラ対策：①非常電源の増設(100%以上)、②非常電源接続範囲の見直し：活動維持に必須範囲の同定、③複数の発電様式の準備、④水回り：非常時に市水以外の水源使用、⑤下水関連：電源トイレの見直し、(2)マニュアルと参集基準：①監視発生地域（石狩地方全域）と種類の見直し、②参集者を徒歩4km範囲に特定、本部員：事前に代行者の設定（可能な範囲で水・食料・着替え持参）、タクシー等使用も許容、

③本部・病院間の意志疎通、(3)連携協定の強化：①周辺病院、②道内外の特定機能病院間、③食料・水・燃料協定等、(4)JMAT持参医療機器の指定、(5)情報系：単方向のSNS発信の強化とPHSの見直し、テロップ情報の訂正不能、院内情報伝達、救急含む院外情報の不足、不適切なJMEC情報、SKYPE対応など広範囲に対応中です。

以上、当院での「ふりかえり」を中心に概説しました。「天災は忘れるく前」にやってくる」可能性があります。これまでのご厚情に感謝致すとともに、災害に強い医療の構築においてご助言頂ければ幸いです。



## 厚生部から

### 第24回札幌市勤務医協議会・ 札幌市病院協議会合同ゴルフ大会報告

顧問 工藤 靖夫

札幌市勤務医協議会の担当幹事である高橋先生が、酔っ払って転び、手首を痛めたとの連絡が開催3日前に飛び込んできました。そこで、今回は、私が臨時の幹事として、観戦記を書くこととなりました。令和元年6月2日に、札幌北広島ゴルフ倶楽部にて、恒例の上記ゴルフ大会が開催されました。天気も良く、6月なのに、セミの鳴き声が聞かれるほどの暖かさで、木の周りには、リスが遊んでいました。

今回は、75歳以上の先生は、フロントティーを使用することと致しましたが、皆さん、必要なくらい飛距離を見せていました。優勝は、東札幌病院の染谷先生で、グロス93でしたが、ハンデ19.2で、ネット73.8でした。バーディーも取られましたが、適度に叩いて、ダブルペリアにはまったようです。ただ、その飛距離は素晴らしく、ドラコンとニアピンを獲得しました。過去の成績は、優勝、優勝、準優勝、

優勝と、この大会での相性の良さが感じられます。準優勝は、私、札幌南一条病院の工藤で、見るべきものはなかったものの、これまた、ダブルペリアのおかげで、滑り込みました。1位は、定山溪病院の中川先生で、グロス92とベスグロを獲得されました。特に、パットは神がかり的で、バーディーを含めて、1パットトラッシュでしたが、好事魔多しで、5パットの落とし穴がありました。2位は、手稲溪仁会病院の柏木先生でした。さすがテクニシャンで、ニアピンを取られています。3位は、札幌商工診療所の齊藤先生でした。後半5打縮めて、大波賞を獲得しました。4位は、小森先生で、90歳を過ぎていらっしゃるのに、矍鑠として、最後までラウンドし、ブービー賞を取られました。5位は幌東病院の瀧川先生で、大たたきをしたホールが隠しホールにならず、ダブルペリアに泣かされました。それでも、ドラコンとドラタンをダブルで取るなど、存在感を示しました。

終了後に、クラブレストランで表彰式を行い、全員で親睦を深めました。今回は、参加人数7名と、少数精鋭でしたが、時間が合えば、より多くの会員皆様の参加を期待しています。

(札幌南一条病院)

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	染谷 哲史	49	44	93	19.2	73.8
準優勝	工藤 靖夫	51	48	99	24	75
1位	中川 翼	47	45	92	15.6	76.4
2位	柏木 明	47	51	98	21.6	76.4
3位	齊藤 学	52	47	99	21.6	77.4
4位	小森 吉夫	61	63	124	36	88
5位	瀧川 義昭	53	58	111	22.8	88.2



## 新 執 行 部

### － 役 員 名 簿 －

- ・ 会 長 成 田 吉 明 (手稲溪仁会病院)
- ・ 副会長 高 橋 州 平 (中村記念病院)
- 鶴 間 哲 弘 (JR 札幌病院)
- ・ 幹 事 土 井 静 樹 (北海道医療センター)
- 吉 田 祐 一 (東苗穂病院)
- 平 尾 紀 文 (柏葉脳神経外科病院)
- 南 雲 淳 (手稲溪仁会病院)
- 鷲 見 佳 泰 (中村記念南病院)
- 宮 本 憲 行 (NTT 東日本札幌病院)
- 川 田 将 也 (斗南病院)
- 澤 田 格 (西岡病院)
- 小 林 尚 子 (中橋内科クリニック)
- 占 部 和 之 (札幌南一条病院)
- 中 川 麗 (札幌徳洲会病院)
- 西 川 秀 司 (札幌副会長：市立札幌病院)
- 志 田 勇 人 (札幌理事：札幌ライラック病院)
- ・ 監 事 大 岩 彰 (愛全病院)
- 水 尾 仁 志 (勤医協中央病院)
- ・ 議 長 三 橋 公 美 (札幌北辰病院)
- ・ 副議長 真 尾 泰 生 (勤医協中央病院)
- ・ 顧 問 松 家 治 道 平 賀 洋 明
- 田 中 靖 通 松 波 己
- 工 藤 靖 夫 土 田 哲 人
- ・ 参 与 宮 坂 茂 男 桂 田 光 彦
- 戸 次 英 一



## 平成30年度札幌市勤務医協議会事業報告

月日	事業内容
4.5	・『勤務医協議会ニュース No.46』発行
4.18	・第1回役員会 第1号 第30回札幌市勤務医協議会定時総会関連事項 第2号 各部における今後の事業活動について ①平成30年度札幌市勤務医協議会産業医研修会 ②平成30年度全国医師会勤務医部会連絡協議会 ③第23回札幌市勤務医協議会ゴルフ大会（札幌市病院協議会と合同開催） ④勤務医委員会・札幌市勤務医協議会・札幌市病院協議会との懇談会 第3号 女性医師の勤務状況に関するアンケート報告書について 第4号 その他
5.31	・第30回定時総会 1. 開 会 2. 会長挨拶 3. 札幌市医師会会長挨拶（代理：向井副会長） 4. 報告事項 第1号 平成29年度事業報告 第2号 平成29年度会計収支決算 第3号 平成29年度監事報告 第4号 その他 5. 協議事項 第1号 平成30年度事業計画案に関する件 第2号 平成30年度会計収支予算案に関する件 第3号 その他 ・記念講演会 テーマ：『最近の医事紛争の傾向と対策～勤務医として留意すべきこと～』 講 師：札幌市医師会顧問弁護士 佐々木 泉顕 先生 参加数：50名
6.3	・第23回ゴルフ大会（病院協議会合同） 場 所：札幌北広島ゴルフ倶楽部（東コース） 参加者：12名 優 勝：柏木 明 先生 準優勝：染谷 哲史 先生
6.29	・『勤務医協議会ニュース No.47』発行
7.5	・第2回役員会 第1号 第30回記念講演会開催結果 第2号 第23回ゴルフ大会開催結果 第3号 今後の事業活動の予定 ①平成30年度札幌市勤務医協議会産業医研修会
9.20	・札幌市勤務医協議会30周年記念事業『女性勤務医の勤務実態と意識に関する調査2018－男女勤務医を対象としたアンケート調査の結果から－』発行
10.10	・『勤務医協議会ニュース No.48』発行
11.3	・平成30年度全国医師会勤務医部会連絡協議会（長崎県） 会 場：ホテルニュー長崎 参加者：向井正也札幌副会長、清水研吾札幌医理事、白崎修一札幌医理事、土田哲人勤務医協議会会長、三橋公美勤務医協議会議長、高橋昌宏病院協議会幹事 メインテーマ『明日の勤務医の働き方を考える～西洋医学発祥の地長崎からの提言～』
11.6	・第3回役員会 第1号 平成30年度全国医師会勤務医部会連絡協議会参加報告 第2号 平成30年度札幌市勤務医協議会産業医研修会 第3号 勤務医委員会・札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会合同懇談会 第4号 第39回札幌市病院学会 第5号 札幌市勤務医協議会会則の改正について 第6号 第31回札幌市勤務医協議会定時総会関連事項 第7号 今後の各部事業活動 第8号 その他
11.12	・産業医研修会 場 所：札幌市医師会館 5階「大ホール」 テーマ：「北海道の嘱託産業医のメンタルヘルス業務－大手企業の支店・営業所と地域の中小企業－」 講 師：笠井産業医事務所 産業医・労働衛生コンサルタント 笠井 世津子 先生 参加数：249名
1.18	・勤務医委員会・札幌市病院協議会・札幌市勤務医協議会合同懇談会 場 所：札幌市医師会館
1.31	・『勤務医協議会ニュース No.49』発行
2.2	・第39回札幌市病院学会 場 所：札幌市医師会館
2.13	・第4回役員会 第1号 平成30年度札幌市勤務医協議会産業医研修会開催結果

月日	事業内容
2.19	第2号 勤務医委員会・札幌市病院協議会 ・札幌市勤務医協議会合同懇談会報告
	第3号 第39回札幌市病院学会開催結果
	第4号 病院協議会・勤務医協議会合同講演会
	第5号 第31回札幌市勤務医協議会定時総会関連事項
	第6号 今後の各部事業活動
	第7号 その他
	・札幌市病院協議会との合同講演会 場 所：札幌市医師会館 テーマ：『ヒトの遺伝子変化はどこまで許されるのか、ゲノム編集の光と影』 講 師：北海道大学 安全衛生本部 教授 石井 哲也 先生 参加者：37名

## 平成30年度札幌市勤務医協議会収支決算報告

## 【収入】

項目	予算額	収入額	増減比	摘要
会費	672,000	468,360	-203,640	会費(158名)
札幌医交付金	400,000	400,000	0	札幌医交付金
雑収入	1,000	60,013	59,013	研修会会費等
繰越金	1,651,697	1,651,697	0	前年度繰越金
計	2,724,697	2,580,070	-144,627	

## 【支出】

項目	予算額	支出額	増減比	摘要
会議費	500,000	345,000	-155,000	総会経費外
事業費	1,000,000	783,510	-216,490	講師謝金、アンケート報告書印刷代外
通信費	400,000	164,870	-235,130	ニュース発送外
慶弔費	100,000	50,000	-50,000	香典外
事務費	100,000	70,000	-30,000	事務委託費外
予備費	624,697	0	-624,697	
計	2,724,697	1,413,380	-1,311,317	

(収入額) - (支出額) = (次期繰越額)  
2,580,070円 - 1,413,380円 = 1,166,690円

## 令和元年度事業計画

No.	事業項目	予定回数	担当部	備考
1	総会	1	総務部	
2	総会時記念講演会	1	総務部	総会と同日開催
3	役員会	6回以内	総務部	
4	部長会	適宜	総務部	
5	学術講演会	1	事業部	2月病院協議会と合同
6	産業医研修会	1	事業部	11月頃開催
7	勤務医委員会・病院協議会との懇談会	1	総務部 事業部	全国勤務医部会開催後予定
8	病院学会共催	1	事業部	2月開催予定
9	札幌市勤務医協議会ニュース発刊	適宜	総務部	随時発刊予定
10	札幌医通信執筆	適宜	総務部 会計部 事業部 厚生部	勤務医協議会活動について (ゴルフ大会報告等)
11	全国医師会勤務医部会連絡協議会	1		山形県において開催
12	ゴルフコンペ	1	厚生部	6月開催

## 令和元年度札幌市勤務医協議会収支予算

## 【収入】

項目	予算額	(前年度)	増減比	摘要
会費	660,000	672,000	-12,000	会費(220名)
札幌医交付金	400,000	400,000	0	札幌医交付金
雑収入	1,000	1,000	0	預金利息外
繰越金	1,166,690	1,651,697	-485,007	前年度繰越金
計	2,227,690	2,724,697	-497,007	

## 【支出】

項目	予算額	(前年度)	増減比	摘要
会議費	500,000	500,000	0	総会経費外
事業費	800,000	1,000,000	-200,000	講師謝金外
通信費	400,000	400,000	0	ニュース発送外
慶弔費	100,000	100,000	0	弔慰見舞外
事務費	100,000	100,000	0	事務委託費外
予備費	327,690	624,697	-297,007	
計	2,227,690	2,724,697	-497,007	

## 「札幌市勤務医協議会ニュース」の閲覧について

「札幌市勤務医協議会ニュース」を札幌市病院協議会のホームページに掲載しております。  
バックナンバーも閲覧できますので、是非ご覧ください。

札幌市病院協議会ホームページ URL

<https://www.sapporo-byoinkyo.jp/>



保険で先生の生活の安心を  
お手伝い。  
幌社はそんな会社です。

- ・自動車保険
- ・火災保険
- ・所得補償保険
- ・医師賠償責任保険
- ・ゴルフ保険
- ・医療保険
- ・終身保険
- ・定期保険
- ・がん保険
- ・その他各種損害保険、各種生命保険
- カーリース、車両斡旋（全メーカー、全車種対応）
- リース（医療機器等）・・・等も行っております。


詳しくは下記にお問い合わせ下さい。

札幌市医師会指定保険代理店  
株式会社 幌社（こうし）

〒060-0042 札幌市中央区大通西19丁目 札幌市医師会館3階

TEL：011-641-7644

FAX：011-644-0157

：0120-089-504